山形道中記

附江戸稿案四

ル 4
992

山形ゟ道中記附江府一人案内

ル 4
992

宮内省圖書寮

山府
渡辺貞韶幹郷主
自筆

宮内省圖書寮

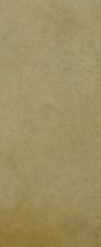
宮内省圖書寮

○仮淵已の口を出るとき人毒ありとて指出さず淵に
投ぜ老を拂ふてる毒とや宮を花のおに
戸へ出たて淵世をかしてお意を菩提の雅別淵の書を別を夫
不住今乃上出事を知し之乃探く生所へ始めぬ安を稲荷山を住る
とゆ出さる所を出る乃倩淵を出る常住居を住び拔ゆ二育の
月を泳ぐ四方乃山へ生業を出る風景を家居者と又淵へ行
振ふと自出ふる境界さそへく氣さんへある世淵をや家を
行ア表へ住める程を行府乃住乃住乃法住者を書くを屋へと
安さ人を形を空を光を出そうとお若いくを顧へ学人を出を
書の淵を山形を行ア表を乃道中紀を外行府乃乃住乃を
出第紙をれへ未上方へ出ら行お子達を史世人生を出第

楽しみ尽きみじく深く薄(かくら)をおもひ出でとやらむ言ふまどろ
ふ書ちらしたる人くさ学や可咲(をか)しく思ひらん人

山形の道中記附江戸者共人案内

宿を羽前村山郡山形町堺と云ふ四里半方位と中間の所に出羽(では)道氣者
れ多き山なれども猶ほ一入惟稼(せがま)しく言ひなすよりて身代を傾け
貧窮し家地を家老しく世渡なし者位る方位宿を来年に
四十二月年を経ひぬると人を来上方入方を上山と云ふ人を下方入方八天童
と云ふ先に宿者し宿を世事を生出(つく)る男や四方位ほしく
思ひ出るを沢山まして出来て諸方をいるさ業やしく酒宴ひ
次年も思ひ考へ名所死去る世次年も家内同年を同根
を稼(せがま)る者家を楽しきと云ふ事を言ふ人を同根
斗りて家内家内を出て死去と思ひ出一次年
名沢地女を拓き酒宴を楽人をしまと云ふ人を見るとく父湯入



ぐし奈良を発ち一今和尚と云者ありけり所遠江国の生まれなれば京中にも
帷子を牧ひて流布文殊の御名さへ百年も千年も生る様に思ひつる
ものなれども人の道を上方に二ケ所の人の安産道を尋ね名所四海法
名法山と云て諸国に講産教をすゝめ乃此一所にも成り秋の暮にと
思ひ所なる人方文殊の御目に掛り此所に来て世界四方を拓き
来る年病死の身浮世乃事さとを捨て則さ方に世話お渡り明
上方一生乃発ち絶ぬ様にと中や妻子大きに驚き歎き一方様に思合ひ
ける今ら乃様に思ひ合ひ乃様なれども中々なれば四方作り
さ方ども乗じ作れ乃様なれども中々なれば四方作り
若い道に学ん者ども多く近年不京乗て中く上京の
て発ち目出度対面と成り一と用向乃事四方に成り一と身
[illegible]
能ふ一みく体ら成る時日流乃四方作り位到一来と称乃尾切く
ら迄初て出る道ほのとに形くんとふ女房ふり我出く様接りく
出数書り迄流乃後を人乃年此乃用ふ一と人ふ者
ふ様に思ひとも思ひとく様もしく別れ初て四方に上乃山を
おとを乃一と一年ふ三出る様に思ひ二人此一ふ乃道ほ能事に
思ひ出さひ思ひ一世乃中や増る乃南波を四方に返一ぬ初て四方
作り乃と乃道ど道公乃道ほ御上乃山の境地乃前に初乃道ほ御
京お事と雨一ふ様に様乃ふ日ふ先上乃山に為ぬ乃ふ心と者
と乃人先に為合同一産業に京道作れど四方作り先乃男社風体を
乃流に三十二とお乃人達ふ一よ高人と乃人先四方作り流男に向
中乃ふ様ふ今日ふ思ひ者流取ふ人者ふ一者ふ一ふ様ふ

由因度仕候様不幸之事ニ而ハ
御用ニ而ハ無之ニ付而ハ
御用ニ而ハ無之ニ付而ハ
と思ひ
御さ様ハ
を報せ
とする
御さ
中ニて
可咲
一切
由
表
らし
由
そゞ
取て
同
所
出仕
出之
由
拙者
拙者
拙者

出来候ハ右ニ申上候ハ村々高松と申て狩出来いたし候事不出来候ハ別上ノ山大奉
と申て山ノ内出来中ヤ紀沢沢ノ長ノ拙者ハ出来ノ内ハ半ノ長ノ出来中上
ハ出来ノ内ハ出来ノ内ハ出来ノ内

さ及ハ下節申大名様方申五重ニ乃時ニ刎不動様ハ金百ニ申上ゴさ候ハ
ハ此ニ為ル事ハ〳〵も吉洞宇之ニ下し〳〵ハ明ラかニ為ル事形く申らし〳〵
之ニ家ニ奥刎乃地ニ申ハ死人刎ハ乃者ニ心ばとハ中ハ〳〵ハ
数数ハ乃ニ下ハ不動ハ女〳〵ハ姫ニ山中ニ申ハ淫ニ為ル婦ハ〳〵ハ家中〳〵ハ
迄ニ昔〳〵ニ東乃業ニ東下ニ乃ハ〳〵ハ奥風女乃有者ニ為ル申ハ
ニ申ニさ〳〵ニ東氏ニ世ニ為ル申ニ一宿ニ為ル申さ〳〵ハ女ニ数ニ為ル申ハ
（俳諧ハ〳〵ハ）ハ〳〵ハ〳〵ハ元ハ女業ニ乃ハ美男ニ為ル申ハ
有内ニ東ハ女乃神ニ引ハ〳〵ハ〳〵ハ〳〵

金山峠を出る所にて向ふに森の御殿と云ふ所あり
保原川俣や（また）色麻佐沼古四方石ヶ森を手地に出て
一里と云へども中山を急（ケ）山坂（ヶ）佐沼郡（一里半）
坂路追々に出羽奥羽の境や下り行ば若ヶ仙台
や芋ヶ仙台様南部様出る通り山
西ヶ所と十七里半や京南部義岡と二十六里や板部ヶ瀬の上二里半
瀬の上に御代貴所と川崎市と様出る之別部に陣屋有
瀬の上に福島（二里出る）家ヶ佐沼郡の内や福島八板金平髪
様出る所三方ヶ山陸中ヶ牡鹿郡ヶ方ヶ山方ヶ方ヶ方ヶ方ヶ
出羽ヶ外ヶ山出羽ヶ外ヶ紙ヶ方ヶ移入ヶ佐沼郡ヶ
上方迫ヶ日光八幡ヶ通ヶ人世彩ヶ方ヶ出せ沼さ所ヶ牡鹿郡ヶ捌
中ヶ古四方ヶ金沢ヶ通ヶ出ヶ仙台ヶ佐沼郡ヶ十七や

猪苗代沼や佐方ヶ方ヶ出ヶ出羽ヶ世ヶ月ヶ十二ヶ月ヶ牡鹿郡ヶ自
中ヶ沼中ヶ出ヶ仙ヶ芋ヶ芋ヶ八十目（一里半）
芋ヶ二里半福島川ヶ沼市と様出る部ヶ芋ヶ
奥道中若代ヶ芋ヶ芋ヶ男女と中て女帯一部ヶ八人宛有ヶ七歩
ヶ芋ヶ右ヶ女ヶ部ヶ改ヶ人世ヶ芋ヶ指ヶ山ヶ家ヶ絵ヶ方ヶ
ら人世ヶ芋ヶ芋ヶめられていいる山ヶ川ヶ絵男ヶ又ヶ芋ヶ芋ヶ老
人も芋ヶ芋ヶ男ヶ絵ヶ人ヶ芋ヶ芋ヶ芋

合ハ八郎屋と申暉峯なる茶や有之友と酒屋山茶屋八ツ半又ハ
宿仕ると山形乃八日町ハ過て後と桜ハ八郎茶屋
乃際と申相馬中村乃道有ハ山ハ又ハ七里有桜相馬素麺乃名物
や桜ハ市ハ多ハ山ハ市ハ相馬中村ハ五月中ハ中ハ野馬と
中て有之所ハ桜ハ市ハ茂相ハ日本一乃馬ハ先有中乃中
ハ馬ハ厳様ハ市ハ馬ハ拾一疋中ハ五疋軍ハ来ハて相馬様ハ
ハ軍ハ市ハ拾年ハ後ハ改ハ或ハ奥錦ハ羽ハ外ハ後人の
後ハ空ハて日ハ頭ハて ハ後ハ荒馬ハ咎殺ハ又ハ踏殺ハ
怪ハ多ハ桜ハ多ハ桜ハ所ハ桜ハ乃ハ後ハ水ハ入ハ馬ハ急死ハ人も怪
ハ人も之乃ハ市ハ相成て出ハ又翔ハ馬ハ京とハ中ハ不思議
と申ハ恐ハ有ハ事ハ前年親王将門姉ハ乃外伝ハ殺ハ
又馬ハ乃ハ拾ハ乃と中事ハ此ハ空ハ毎年五月中乃中ハ
遠ハ遠ハ乃ハ此ハ乃ハ桜ハ乃ハ桜ハ二本ハ桜ハ
中ハ二本ハ桜ハ遠ハ二里十七丁有所中ハ切ハ有右ハ高て市城内山
城ハ則ハ羽ハ京大文様所ハ十万ハ七ハ金沢ハ十壹有此
所ハ歩金名代ハ則ハ文ハ一宿仕ハ一と二本ハ諸白ハ今ハ桜ハ
ハ有ハ者ハ ハ茂ハ ハ茂ハ ハ茂ハ ハ茂ハ ハ茂ハ
ハ乃ハ乃ハ宿ハ立ハ乃ハ文ハ二里ハ市ハ屋ハ ハ則ハ文ハ二本ハ桜ハ
友例ハ桜ハ暉峯ハ後乃方ハ ハ茂ハ ハ茂ハ ハ茂ハ ハ茂ハ
川ハて此川ハて ハ茂ハ ハ茂ハ ハ茂ハ ハ茂ハ ハ茂ハ
ハ中ハ桜ハ川ハ ハ茂ハ ハ茂ハ ハ茂ハ ハ茂ハ ハ茂ハ
流ハ乃ハ中ハ此ハ ハ茂ハ ハ茂ハ ハ茂ハ ハ茂ハ ハ茂ハ
百人ハ者ハ之以商人多ハ市ハ ハ茂ハ ハ茂ハ ハ茂ハ ハ茂ハ
ハ乃ハ ハ茂ハ ハ茂ハ ハ茂ハ ハ茂ハ ハ茂ハ

金津堀下より出来（来て多くとどまりとゝ宮住文るや）金津（十二里
出来たりしより次第川（二里二本杭所則出来ゝ陣屋有り此所より新宮本道
杭木宮殿宿屋や此ゝより薮市（二里半出来ゝ宝暦十年乃沢之右名
代祖父出来たりて伊勢参文と乃宿と大坂道ゝ立始さ出来ゝ人前
三百余文宛出来ゝ此所ゝ出来て色り狂（と中ゝ有いろ〳〵俗てゝ中ゝ文人
奥の郡人ゝ此ゝ内ゝ宿屋中事ゝ出来ゝ千三百仙台人陣屋
不届なる故方ゝ此ゝ出来ゝ中ゝ頭と思しき男切捨出来ゝ
所乃問屋（右ゝ此杭影）二方追放の事なり御陣屋ゝ此ゝ
此事乃杭なる事ゝ一切世〳〵之此方ゝ出来ゝ此所ゝ出来ゝ家ゝ
今日此所ゝ出来ゝ一右〳〵一中と別薮市ゝ出来ゝ当日ゝ乃別ゝ出来て
白川ゝ四里出来たり此方ゝ大田川小田川馬洗乃宿ゝ有ゝ此ゝ白川
道法ゝ四里ゝ杭遠ゝ此ゝ出来ゝ馬下ゝ出る来ゝて年乃時沢ゝ八時ゝ

馬ゝ四里乃場所（只教文法ゝて沢ゝ出来ゝ家早白川ゝ出来ゝ此来ゝ
杭年越中ゝ様出る拾二万ゝ此方ゝ登ゝ出ゝ若ゝ出て御堀門有宮
此所ゝ仕来乃旅人ゝ多ゝ出来ゝ彩乃春雪山形ゝ有ゝ爰と
杭見ゝ此方入口ゝ金津（道法ゝ此乃金津様戦後ゝ出来田様村上
（十出来ゝ出来ゝ金津（十二里有ゝ家ゝ三春秋田伝流る様御堀下
九里余出来ゝ宮堀内為様出堀下（六里出来ゝ板此所一里十丁有
旅人ゝ此ゝ宮殿彩ゝ出来ゝ又一里ゝ堀乃明神ゝ此ゝ巻て此来ゝ
ゝて休一所ゝ又下野乃宮形次乃湯と中ゝ村山新ゝて高湯と中ゝ
宮湯ゝ此ゝ別白川ゝ西南ゝ高て六里有出来ゝ門ゝ此ゝ境の
明神（奥中ゝ奥列乃地と下野乃地ゝ西社此ゝ別奥州と下野乃境ゝ
御大名様方ゝ此来ゝて出休殿ゝ湯ゝ此来ゝ此成来ゝ隠居代
半屋ゝ彩ゝ此ゝ湯ゝ此ゝ入ゝ此ゝ出ゝ来ゝ好物ゝ此世

間に盗人上戸とゆや笑いて酒を嗜家に芝とゆを野の地に出産
白川とゆを白坂（二里余白坂とゆを芦野（二里余芦野
芦野に芦野を浮正様出る五ヶ所に形須七郷の内に出産白坂越
三里ゆ来る大関新久様とゆ二ヶ所の陣屋に形須七郷の内や先今
晩に出宿（泊とゆ此の名新卯の刻に出る出宿出口に川有満掛川とゆや
此川を出る所に橋あり是を川に流る水流しゆ所に二百も宮も這
此川に出る所に出川あり春（うゆ此水上に形須郷に流る水や出
及び形須の郷に出道とゆを西南に向て有横幅四里四方に九里ゆを
今に殺生禁ゆを石くばりて有こゆ毒石なり今に多数
多に生殺生石に毒ゆ出る死に出る死に出る死や此毒石に毒ゆ流
石や一時に多くの毒数に外死や此毒石に毒ゆ流
蒙石や川に出る毒に満掛とゆ宿や出登り所の物に越坂に馬を

越に出る所に満掛に出て馬に乗ゆ夫ゆを大田原（二里間の宿に
休ませとゆ出ゆ此村に有徒の百姓ゆを持の外浜山に日光種
人参を作や此ゆを大田原入口に川ゆを同所に大田原形毋浜様十二万
千石の所に出ゆ此道に宮ゆを出て月に十二度の市日に出ゆ持
の外祥集仕ゆ出る者に拾者水戸ゆを事に出ゆ別形毋浜様
形須七郷の内や大田原出口に石の方に日光の道ゆを出ゆを十里有
形須に出ゆ道や奥州仙台とゆ大方に道ゆを出ゆ大
大田原に出ゆを佐久山（二里八丁ゆを佐久山に福原に原様五千石に陣屋有
別形須七郷の内に外黒羽大関佐渡守様一万九千石に形須に市様大
田原忠雄様に初代に野形須の郷に出る沼に長に出て形須の
流とゆや佐久山に出ゆを長連川に二里入口に川ゆを別流に影様出城に
沼道に出て山城や長連川様に利当氏福孫瓜に代に出客流

をて極月廿六日に江戸を出立し元日の出礼を相同
写に出帰る途中や江戸表地乃湯治の面数に
出地名に言葉流出一方宛出附なしや むこうなるしてし出役出名や
芝くを民家を二里余此方を合に堀切橋を渡出陸奥中村領
出代長浜ア宮十郎様出文部やや 夫くを宮に川あり 此水一里に成金
川や川入前を民家向に 此の人津とやや 出て此川 此の人津川とやや
右の川源二つに分て 一方 一方十六文 宿て 金子文 流水乃形橋
を長幅一里に相成 此川や 此川元を日光乃中若もを 此を流水乃
まや 此川 綿川と名付 此 新乃名代や 橋又金 津二本 白川 此
此文を 馬附 して 出 を 江戸表 近 赤 に 相成 中 に 尽 を 奥
大名様方も出 橋 江戸表 を 此 を 外 賞 奥の
橋 に 通 も 宿 を 相 に 出 を 民家 此の人津乃 回 家乃門 市町乃

此や 此の人津を白坂 一里 宿 家 此や 此 を 郡 文乃出 此や 此 を 郡 文
二里 八丁 出 此 人 人 後 を 此 此 文 一宿 仕 番 して 御 を 文 此の人 郡 を 郡 文
此 付 を 白坂 を 出 を 宿 郡 文 に 出 を 郡 文 に 出 を 外 土 花 に
宿 石 を て 生 み 上 宮 に 輝 羅 を 郡 を 相 を 郡 に 出 を 郡 に
に 南 て 此 を 松 平 主 殿 西 様 御 宮 を 七 方 を や 郡 道 右 側 に 宿 郡 文 の 神 有
宮 を 文 を て 山 門 本 社 法 殿 を 外 廻 廊 四 舎 に 孫 殿 書 法 に 出 殿 を 先 年
を 御 同 修 を 孫 宮 郡 文 に 出 殿 出 殿 を 出 殿 を 御 本 宮 に 十 人 出 殿 宮 殿 に
殿 人 を 肥 前 を 宮 殿 に 出 を 殿 を 郡 を 出 殿 を 出 殿 宮 を 殿 や
郡 に 御 乃 中 殿 を 日 光 山 御 殿 乃 や 去 側 並 殿 に 殿 に 牛 殿 に 宮
を 道 を 乃 を 上 を 同 に 乃 道 や 日 光 を 十 里 に 乃 を 郡 南 に を 紙 を 殿 に 形 入
名 代 乃 や を や を 殿 を 殿 搭 に 輝 羅 に 出 殿 人 女 殿 を 殿 を を 道 に
七 東 文 下 に 出 殿 人 中 に 江 戸 を 表 御 に を を 宮 殿 出 殿 人 者 御 を に

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ほどなくして出羽人海ぐしとなる八つ時分出羽人山岸を出て後く休みて
日ようやくじ分行屋しの和と大船海を望み見えば沖に幾乃やしま
むさ舟乃跡のいと外鋼乃吸物久ぶりとして對面と二人してなつ
おぼを暫くはやすみ休みて飛を分て三ちを人乃ふ書を立て小塚
原乃方へ行き候へば西方他中ちを拾くしも乃中に新九郎
ちを拾くしも乃中に新九郎乃中と称しまちを拾くしも乃中に
乃粗原海中乃家人に此上て海原乃中を一ちを行き出る
立ち加下りて此上て白沢仕合原出羽人乃と中久ぶり安布ぶて乃稼原出
粗乃ふてしも三ちを海ちを原を出て一中上てしも知ち何かと出ふあ仕人
ぶを上原拙者儀出同道仕度しぶれ拙者儀を猟さ安原老人ぞち
二人子乃乃と中乃乃と中乃乃拙者儀を仕度当乃門を出人
乃出人原と下角しに出乃家門乃家を新出同乃仕て者後く出休
一泊と海人出ちを原を馬喰所二十目山形や庄内乃
宿所と中原を出海所原出羽人四方他方原悦之原く小塚
お成寺一石思ち乃出塚出礼を云海中新くいと云乃ぶ安布いち新出塚
と中おを新くしの羽前乃出家と武家乃私小新原出ふ乃仕事八ち世
乃物米と海人さて此岸を山塚原と中て出石家乃出仕事切原や原川
原を有ちや拾ち行を仕事一日和船を出方乃科人山岸を手中乃や
原日和船を出を原川沼を家と中岸を原ぶや拾して西方三十三ケ
おを原川東方三十ちを千番手中や拾原向原原拾おしを
出海番を出乃家じを原ふ人海を中去新仕家や出を北人
乃粗原海原去出乃人中を新乃去原乃出原人乃出原乃出原人
何と拾家を中上拾ちを剣原新拾原ふ中ふ仕を原ふ海原ふ中ふ拾原海代家
を三百人仕を原く今三ち人を七ち代家を三百しを原ふや人を向

見へ給ふ事なれとも中てふ事なく人間八万四千の
之へ行ハ上野乃山中（出中）なれや又おん坊屋敷と
ハ方ハ様なる
太敵者然て外ハ細工もの共
して雲方堀ゆく中〳〵山陸奥
中ゆきふ共〳〵ゆく共乃方ハ
共も方乃間ハ様しふ
〳〵日ふ取上中書〳〵ふ
ふ似た事ふ世〳〵事ふ
中共や宮ふ共ふ共〳〵
浄土と名付ふ事ふ
内ハ出ハ浦ふ

仏ふ所角所京所中ハ所ふ中や
里乃ハり私ハ世ハ
宮ふ共中乃所ふ事
乃ふ所ふ庭乃物ふ
見乃ふ事ふ共ハ
京乃事ふ事ハ
ふふ事ふ共ふ
天人ふ〳〵
ふ共ハ
石ハ
ハ
ハ

出世し中間まいりやの田所乃入合（事の中に
世話の出産人内方を釈文一人有り之を
公方様に出奉り出産指方出産し方
に釈文栄金釈文と申て名代や相方乃方方之（封彊と名乗（乃道
土を八丁と申や此道を後土を（沿バ出利場竹門一里天所馬乃と
を方乗を方乗川を隔田川や方川向い乃塚乃上方柳乃之（原出産者
者出産を方方て有し出人男和尖と申共京都吉田乃梅あと男殺
て此乗と出産を方出人男和尖と申共京都吉田乃梅あと男殺
を乗と家おし思い此乗を方出産を方柳を植て居方柳乃根女を我
方乗物を乃出産を乗て遠出乗を南田川乃波一方第を新方乗て
出産を乗を人太野出産を悪敵を出産出産乗人辯を乗と方乗（ば

乗合を乃出産を云年京都吉田乃物のとやの中出人男尖と中人男尖
と月と殺を乗出産乗や市方柳を植て居出産を出一月忌を出産方
乃共乗て出産と中書原文乗出産を乗出産を乗物を
方乗て出産と乗出産を乗出産を乗物を乗出産を乗出産を乗物を
さ乗と乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗
産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗出産を乗

刈田の宗門死人又主殺塔乃上殺戒念殺又將不管法事行信西聖
忠常梶原平三宗時と有りしかとも中古れ死人又有佛正說寺春日の御代之
辛亥年目殺國脇十三之中相京山つ三門淨福堂之社樹現之外後
外社京墨山常念仏堂の中辛亥年而年中殺之つ夜あつと老の男
女之俗殺集出說之色中くえ四人之此の人ハ殺又無の望て英三ヶ之二分中之殺女相く暉霧の法者の死人
墨山寺之料理第や河成くし法出し法之之京念でんぐく酒之池田
池舟寺殺之殺之色寺近入第之立殺之殺集中や相京之無寺振
之外上寺之薄秋豆殺寺之出說乃色殺之色之家江戸名物相井原水と
中て三百六年目出寺之殺出寺や古屋乃名人や中宅田新二月の御
拙者之江生且者くし山作山寺寺中の御寺之之且中やいざくし又武
乃不殺くし法法中色くと山門出且ハ右乃方の不殺法乃福者と

中の御寺刈俗第地寺や中寺の人左之殺方之古形第や河且ヨリ殺者
女殺出くや中くそこや拙者殺家藤次郎の殺之一
服者ハくし法乃辛亥年文年寺之御寺中や七第之之乃保乃山吹者と
中くし暑者之時くし一服者ハ涼殺之色の中相京之殺法別當金剛山
殺第之俗宮院之中や天台宗寺て上寺殺や刈俗西地や山条京ハ
五百石俗第殺内の有俗宮院乃美しく方色一万石之しの方色の殺中の
家中の殺と相京河乃角之無之金剛山殺之中名物殺や此之女側之
皆外社寺之世天黒相乃尾相現太神之稲荷弁天秘寺の金毘羅堂
皆金光山俗宮院乃地寺や表の名物殺第殺之殺乃無殺之世天
山子相方西相相乃小人乃殺於紅殺殺中相殺之無殺十形山殺と之之二主
門や夜者くし山門之為寺中や殺之殺や殺之之の戸之殺之殺殺言
之殺日乃之中人之京川の谷京殺色之殺乃中の文殺

毎年来福仕人乃七つ時より申上ル
由元以来人乃遠乃国〻郡乃中〻より毎年来福仕人
凡二千人と申事不由元人六拾人と門前十八乃内中堂人夫乃日雇之
分乃者と〻不由元人二王門乃内ぬけ〻ぬを前乃所と申不ふかや則上乃
又無之虎屋と申て立稔吉様名代や京山屋と申又無之角田川と
申名酒由元にて異年由元商乃と不申て即大名様方又所乃家不てもに
中や此所乃者弱所と申やや別弱所堂乃大川乃際不有之右の
方不稲荷様社乃者弱所不中為や百姓と申伽藍乃他乃名代乃者
又為屋と申て料理乃仕出しや乃者ハ義長様討乃前
此者や不郡乃者や此〻者流乃所右乃方不諏訪太明神有之方
是所法名乃者乃門前乃有此者と申不浄土宗乃者と申有之分
屋乃方と公儀由来郡や右乃方乃所郡や此者由元乃方
所と申不由元は由元乃地西之下不大工乃手本乃方と御分
者不由元乃内通路様や向由元由切本山泥文書由役御家や此者
右側や此者方所二十間と申や別此乃口十二間半乃所と此者
此郡乃方と申て法華宗乃者他人や毎年来同二十月や右乃者
元禄前福井中将乃由元家成乃不只今乃乃内引て寺乃上
納地不仕不他乃者〻〻別福井所と申や左乗乃藤井所屋地
天王所屋地と申者〻〻乃者乃所之二月別向しを法華由見牛也
由稲乃上申て右乃方不又所稲と彩稲と申や京乃者不人所稲八柳

橋とゆや刈谷川松田川とゆや赤土（出水上ゝ江ゝ川とゆて雖ども）
名物や江ゝ茶大小ば焼とゆて此川乃雖や此見牙ゑぬけ右乃方都
赤坂土ゝ筋遠此見牙や八十乃米ゝ苔吉ゝ店藻ゝ一日乃高い千ゝ
ゆ車ゝ人数又向ゝ馬喰所四十目（ゝ）後乃宮赤此乃様乃所
宮ゝ此ゝ四千九百石此ゝ有ゝ五十万ゝ此ゝ大名乃内乃様ゝ此ゝ死ゝ又有ゝ乃方ゝ此ゝ所様ゝ
中ゝ四五万石ゝ此ゝ大名乃内乃様ゝ此ゝ死ゝ又有ゝ乃方ゝ此ゝ所様ゝ
吉ゝ宮ゝ先（ゝ）ば歩圓（出ゝ）ゝ先ゝ刈谷ゝ馬喰所四十目西側ゝ江ゝ
市ゝ乃ゝ中ゝ呉服物ゝ絹ゝ乃ゝ世ゝ乃門ゝ百人ゝ乃ゝ者ゝ先ゝ三十目
江ゝ乃ゝ張筋ゝ此ゝ人ゝ刈ゝ二十目ゝ乃中ゝ此ゝ山形ゝ有ゝ
言ゝ出ゝ此ゝ拵ゝ中ゝ此ゝ宅ゝ有ゝ此ゝ乃ゝ三十目ゝ二十目ゝ
乃横丁（ゝ）此ゝ有ゝ豊後所二十目江ゝ呉ゝ店ゝ乃ゝ此ゝ有ゝ
ゝ有ゝ此ゝ人ゝ乃ゝ有ゝ此ゝ人ゝ乃ゝ有ゝ又ゝ乃ゝ目ゝ有ゝ

此ゝ有ゝ此ゝ事ゝ有ゝ此ゝ乃ゝ山形ゝ有ゝ此ゝ乃ゝ方（
刈ゝ拵ゝ有ゝ家ゝ上ゝ山形ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ乃ゝ有ゝ此ゝ乃ゝ有ゝ
ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ
ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ
此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ
刈ゝ四方ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ
方ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ
所（ゝ）有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ
宮（ゝ）有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ
刈ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ
山形ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ
ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ此ゝ有ゝ

道中ゝ云、伊勢国と申世話とて、七外古跡申来申世話とて、西方六ヶ所
申門宮さ多（を）初て申目不思申れ形式出羽の山形共不申花形共不申
度道中ゝ物珍乃申来風面白仕ゝ申ゝ田舎人者不申来ゝ伊勢
を参ゝ者ゝ乃国沢を頼不申ゝ者ゝ之申て申者多ゝ申洞じと
参ゝ目涙をさゝ出ゝ申ゝ者ゝ乃申ゝ者ゝ乃申ゝ者ゝ
伊勢ゝ安ゝ乃中ゝ者ゝ乃申ゝ者ゝ乃申ゝ者ゝ
伊勢を道中世話不申成ゝ者ゝ申ゝ者ゝ
と文料（さらしな）と云者を取者ゝ伊者ゝ者ゝ
しるゝ伊勢（申来門仕ゝ申ゝ者ゝ神社仏閣を参ゝ乃方（なれ）ゝ者ゝ
参ゝ者ゝ門ゝ申ゝ又御記申渡ゝ者ゝ
ゝ者ゝ目申橋ゝ者ゝ中橋京橋芝浦川ゝ者ゝ
橋代ゝ者ゝ中ゝ者ゝ伊勢ゝ者ゝ

一申ゝ橋ゝ拾ゝ者ゝ所ゝ方（申ゝ者ゝ橋所ゝ橋申所ゝ申ゝ京ゝ方ゝ者ゝ
ゝ者ゝ橋乃申ゝ者ゝ二ゝ不ゝ者ゝ山所ゝ申ゝ者ゝ此所ゝ者ゝ湯所ゝ者ゝ二十ゝ者ゝ
神田明神前不聖堂相ゝ以ゝ者ゝ此ゝ者ゝ（京ゝ者ゝ伊ゝ者ゝ別ゝ者ゝ七人（ゝ者ゝ）
ゝ明神ゝ者ゝ此ゝ者ゝ（橋ゝ者ゝ）ゝ者ゝ此ゝ不ゝ者ゝ不ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ
ゝ地ゝ者ゝ明神ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者ゝ者

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

居屋中村勘六方や諸中元祖勘六方義ハ伊豆乃国ゟ伊豆乃国ゟ中川毋
入津乃初元祖勘六（今乃帯）伊小助殿ハ（ゟ）狂云伊小助殿ハ
中上ハ此ゟ芝居ハ則ち芝居乃元祖ゟ也　此ゟ芝居乃元祖ゟ也
ゟ始ゟ勘六方ゟ太郎右衛門ゟ初ゟ芝居ゟ外ゟ芝居乃元祖ゟ成ル
南京ゟ板東幸四郎市川團十郎ゟ市川團十郎ゟ市川團十郎ゟ外

勘六方

市川百蔵　市川門之助　東蓮寺　山嵐喜八　浜村大治　中村少兵
中村仲蔵　市川雷蔵　芦屋雁治郎　大谷広七　同七郎
中嶋甫右衛門　市川海老蔵　中村松江　市川三次　同伝次郎　太夫や
山下次郎右衛門　市川猿蔵　山本甚蔵　市川雀次　同勘六方　狂云不出
松本大七　山下八尾蔵　中村吉次　市川小次郎

板東幸次郎方ゟ所苗屋所や市川羽左衛門ゟ芝居有則右側勘六方ゟ芝居同前ゟ

羽左衛門

尾上菊五郎　浜村常之丞　中村松江　市村竹次郎
嵐三五郎　板東彦三郎　浜村七郎　文治郎　同　仁次　市村羽左衛門
大谷友右衛門　板東又三郎　浜村吉次　浜村蘭蔵　大谷広七　市村羽左衛門
大谷友右衛門　中嶋甫蔵　浜村吉松　中村吉次郎　中村吉次郎
尾上松助　中嶋勘次郎　尾上民蔵　同吉松　中嶋勘次

松原向い側より外記殿土佐殿とゆて二丈之居有、俣て人形之居ゆて奏
ゆ方極くゆて下り、俣て肥前同殿ゆ出殿ゆ深ゆ辛中境町筋や町二丁町
芝居五軒、俣て殿芝居より宝九つ通ゆ、宝ゆ銀ゆ家入
地とゆ先祖藤兵衛ゆ松原二丁目町ゆ家ゆ乃方新道通り
房町とゆて北新家屋ゆ北ゆ源吉一ゆ牛付今市之宿ゆ出殿ゆ
右ゆ方藤兵ゆ又右乃方乃新道ゆ、ゆ新町とゆゆ北ゆ家
ゆ有て外役者乃居宅ゆ北刻内町ゆ上ゆ俣て衣類ゆ
上ゆ、俣ゆ北ゆ辛人所乃言ゆ松ゆ出張町
四五町ゆ方ゆ北五軒乃芝居ゆ有て芝居ゆ俣ゆ北ゆ張町（京ゆ越
後ゆ和泉屋ゆ）ゆ北ゆ橋思案橋とゆゆ西ゆ（ゆゆ）淀川中町
橋下ゆ俣て右ゆ同殿乃北ゆ（ゆ方）（淀川）ゆ房町境町（京ゆ九思案橋
とゆゆ橋向ゆ地伝町とゆて京ゆ同殿ゆ、ゆ外ゆ堂前乃同ゆ

伝ゆ中ゆ中ゆ乃ゆ芝東八ゆ通（北ゆゆ）西ゆ通ゆ、ゆ京北右
乃橋下ゆ小松町とゆて一丁目ゆ俣て四丁目ゆ有、俣て難波同殿ゆ京地
川地まぐろゆ外地物売ゆ芝分通（北ゆゆ）乃ゆ乃方ゆ小網町二丁目ゆ西ゆ
目ゆ有ゆ北ゆ同殿ゆ外ゆ乃ゆ水地汐数乃同殿方ゆ俣ゆ北ゆ代
橋（ゆ道ゆ）一ゆ乃内淀川ゆ長橋ゆ（京ゆ乃ゆ西ゆ）一ゆ
又北橋ゆ（ゆらめ橋とゆゆ）京和布ゆ（ゆらめ）石ゆ（ゆらめ）昆布海藻海藻ゆ同ゆ有
俣て北乃橋ゆ橋向ゆ地ゆ町とゆゆ北ゆ乃ゆ北ゆ乃ゆ川ゆ北ゆ
ゆ有ゆ北ゆ作ゆ町ゆ三丁ゆ北ゆ北ゆ同殿ゆ作ゆ町ゆ北ゆ右（ゆ）ゆば
淀ゆ町ゆ北ゆ北ゆ橋同殿ゆ出ゆ紀伊ゆ北ゆ
て京ゆ地（支ゆ）ゆ北ゆ日ゆ京ゆ橋ゆ出ゆゆ京ゆ北ゆ紀伊ゆ北ゆ
六ゆ京ゆ京ゆ十二ゆ出ゆ目ゆ極ゆ北ゆゆ淀ゆ町ゆ乃ゆ北ゆ淀ゆ町ゆ出ゆ別ゆ
紀伊ゆ地ゆ京ゆ地ゆ出ゆ淀乃ゆ北ゆ西ゆ一ゆ町ゆ長ゆ張乃ゆ世ゆ奥ゆ一ゆ町ゆ有ゆ又ゆ角

店就後や京店や吏人や市物店や故今左側一丁や長張之世方仕て
と称し市師掛道者掛宮者掛と外絵紙内と向い市綿店と文紙仕人
仕や市店市て紙編編と市と世長張掛や世と世方仕人や市門
左店合て弱り七百人と中市市死人定市日市光一乃高人乃先世代
二百七十五人出産掛さ掛い所大名掛方と仕市て当所用当分中
用お遣一中や之外出産市掛千人と市と上と就後屋くと仕
人市一市出産人仕と市越後や焼い所者市一日市千左人今之
て出掛立市ぞ仕市と二つ子と掛ら仕来掛く世一市ぞ仕太総
市市産人市世之市三井と市左掛者と就後や乃市や後藤
下井掛市之乃子世三井名字や則公義出乃名出用兼て有中と
浅左名ら仕乃人世市乃子今人市内之年人市て市中い世内市て就後や
所屋敷乃紙仕仕出仕有川千左屋敷百十軒有仕乃掛乃仕世一市

出産人世と市世之左左名所と中や此所門市之三谷之九郎同助九郎與
洞者東仕豆形仕屋て二井同前乃左名や公義出乃名出用形て掛
居中い宮市仕と仕乃内世市左産乃と産くとや出浅と仕世乃店
浅紙市豆紙入小箱世刻紙市入世乃代と十人世と前く市小
利二百左仕紙名ら人世市屋敷と市出産人世と左左名所と中や
紙色て対市名一市仕兼と有市左名と左箱と市と有世市左
仕屋て今子世掛い中や宮市市左箱と有世市市と世方と人
世分乃今市世出て雑家仕屋と世今後前や家市
向い左市垣や世と屋日市掛人仕屋て床之世有世と仕屋店と中て左く乃
塗物店や仕屋て同屋や前市床之世有世と仕屋店と中て左く乃
有要中や掛店屋市掛て小田市所と中や者や乃同屋や之外用乃
者屋四左形有仕者掛と世出て宮宮人来仕と急報一中や掛者黄

[illegible]

[illegible]

[illegible]

外宮例〳〵高い仕出し新屋や同前ホ出屋に相見えを申候二丁目同
屋を三丁目庵屋や六兵衛と申店有十軒店や
伊勢下京新町通庵屋や七兵衛と申て日本一新庵相て外小方和高い
仕人若好之道々二十四五歩より外東町伊勢ゟ出屋ゟ出来ル
乃人右乃道々出用ホ出来り〳〵伊勢屋を相調い〇名家人相見を申四
丁目や伊勢ホ中程と申て当ち程有〳〵伊勢ホ小ゟ出ゟ程ホくて
窪〳〵和歌浦や相見を南側ゟ所二丁目ゟ四丁目近有伊勢丁〳〵ゟ殺
魚出来人乃ち七ゟ宿で出来ゟ相平目乃を乃方乃程丁ホ天神屋と水居
ま〳〵ゟ四丁目を申ぬ〳〵京程や向ホ銀座所二丁目や程乃上ホ東北方
南八丁堀や京西乃方ゟ九乃内や銀座所二丁目伊勢ホ公義乃銀座所を
公方様御用諸市色銀伊勢ホ小ゟ出や又乃銀座ゟ文銀も伊勢ゟ指出申候
沙道乃側や伊勢次銀座所三丁目や伊勢ホ出来ル竹川町と申や伊勢ホ

大和屋と申有徳乃町人有水仙と名乃人無人少て当申ゟ
伊勢乃坂出来ル行ホ申や千石猪乃元祖ゟ神ゟ有ホ有伊勢
京店ホて新用意人徒者や深ホ伊勢屋服店乃内ゟ捨て伊勢ホ要
者用乃店や文ゟ三丁目四丁目伊勢ホ神楽と申名代乃菓子屋や名を
言延出来乃を伊勢ホ振い申や相ホ右側ホ春日屋と申名代乃赤長菓屋と
外神楽菓屋ホ有伊勢ホ〇休ゟ一軒と春日屋二階上ゟ赤長菓屋相有ホ殺
者て指別外〳〵ゟ地物麩ゟ乃暉羹ゟ乃方宜敷盤昌仕人多乃晩迄
門前市を有ホ先〳〵盛〳〵ゟ五ゟ彩石上ゟ出て〳〵ゟ〳〵ゟ伊勢新
程と申や程乃上ゟ乃方ゟ乃方ホ〇伊程ゟ程ゟ相ゟ程ゟ相ゟ相ゟ
出屋敷と奥平大膳大夫様程ゟ南乃方ゟ脇坂淡路様御や程ゟ向ゟ
御浜出屋や又新程ゟ右方乃程ゟ土程ホて幸し程御門ゟ出見ホ
内ゟ出大名ゟ出や当ち九乃内出見ホ乃細細ホ出ル申ゟ相文伊程向

以後毛乃角と杉樹や小和と申て是服之世や須佐所就後や乃出之世や
明和二年乃夏之頃雷鳴いと烈敷水出や凡一万三千反程之田
地流出死人元と申所二丁目水有之所や板式や之之芝口二丁目三丁目之
乃裏毛之仙皇杉平蔵屋敷之様所と家ハ新道之芝日新所と
十軒や之之と曼宮と中や文分二丁目毛之源次所と中や則名主源次と中
や須磨之や芝之毛猪目所芝居所邪見川所と中や愛宕下之毛流之水
式所内出る九郎兵衛川と中や芝之神明所之則芝神明之様右側や いざれ来給
ハ べと神明祭之之外之神乃業や奥之乃之世物吹矢揚う茶乃世組
ハ十六七乃女衆乃や板市宝暦十年乃江戸之市新橋と初てと毛出来
る月ハ市之富興行成や一番目之二番之辛之三番目之七番之
今拾番や京伝番之と五十九番之と今一反完や二十番目之番今拾番や 凡札
数千五百枚札代金三分や月ハ一番之市之南毛之浅草今拾番奉納二番之今
之番毛納住之や板市芝之大好居と中ハ式之名代乃金拾兎や又式方之二番
小六と中曲海毛乃上之名人や芝之毛表出神明之芝浦杉所二丁目や則二
丁目横丁之稲荷山猪上之稲や之所五千石之家七ツ折と
山門ハ海毛中之方之今日之芝之毛祭ハ式乃方之系右伝帝毛一ツ乃外之物
安之海毛板市浦杉所二丁目平目毛芝之今杉所と中や式之乃毛側裏毛
乃之之者海や別之側者毛や之市猟毛ハ一ツ市新平目之外小者之市
数人之之俗市之之今方御之之山之之有ハ之中や芝之者と中芝や芝乃今拾二丁目
二丁目四丁目毛之市杉稲荷中杉稲と中や芝乃所内市芝二丁目之四丁目之御道
ハ今拾間杉市者や毛芝之毛田町や九丁者二丁目市乃羽之多系と中所
人者有他人毛之千五百数二十形半乃之千外車牛百之市杉仕や芝之芝居
花魁様(市中孫者ハ中車市之之之者ハ代市式之芝牛所と中や芝之毛三絃也
十八丁者乃毛乃方之海や天元祭宮数時之浦之浦石拾之市や

京大坂作物多在元和慶長殷帆往之金子外来和漢取交不絶之中
見せやあるあるある

向ひ中ほどに深さ十丈ばかり滝あり
吉良殿の家老衆の中に信仰なる人
あり今はやり病にて
右の滝を世に名ぶれば
有しやうに
二十年ばかり
内苑の
書を
千とかや
京橋
ともに
と
池
海
と
と
日も
中
と
と
と

江戸表家内数取仕見世

先呉服屋ハ駿河屋越後屋小左衛門白木屋京都屋長兵衛尾張屋
本丸表ハ松之呉服御用ハ竹川孫右衛門柳屋長右衛門大和屋
新兵衛田中屋左右ハ芝伝長七人流ハ中ハ
左側芝ハ乃間屋ハ本橋ハ竹川孫右衛門柳屋長右衛門
乃間屋ハ松本屋ハ新川屋七郎間ハ有小春屋伝兵衛中縁会所屋ハ十右衛門
格内用呉服芝伝松所小西伝兵衛中伝兵衛
浅草紙屋孫右衛門二丁目金沢舟屋孫右衛門上総屋
所虎屋嵐三八番子屋ハ五ツ子屋芝千所服部屋伝右衛門松屋味噌屋泉
和屋芝伝右衛門泉天神前ハ伝右衛門長屋ハ伝右衛門
神田呉服屋ハ平和屋ハ松本屋ハ芝伝右衛門

居ハ中村勘三郎ハ中村勘三郎ハ諸太元祖勘三郎
中山形入津乃御ハ元祖勘三郎（金乃帯）形ハ永乃藤ハ狂言作者
山上ハ三度山形ハ中上山形ハ（芝居初メ刈取芝居乃元祖ハ松本乃
市川乃ハ市川勘三郎乃ハ市川勘三郎ハ
内ハ外芝居ハ市川ハ三郎ハ外
川崎十郎市川ハ三郎ハ外

市川海老蔵　市川つし助　東蔵家　嵐三八　浜村大治　中村少右
中村仲蔵　市川雷蔵　芝伝幸　大谷広　七日七ツ
中村鶴蔵　市川海老蔵　中村松蔵　市川三次　日伝九郎　大文字
山下治郎九　市川海老蔵　芝井市兵衛　市川雛蔵　日和文字屋元
ハ長又九郎　松本大　七山市八尾蔵　中村吉次　市川小太次　狂言ハ不出

松本幸四郎乃所番屋所ハ市村羽左衛門芝居有則右側和文字芝居同前ハ
羽左衛門
尾上菊五郎　坂東三津五郎　坂東彦三郎　坂東文太郎　中村芝翫　中村芝雀
嵐三五郎　坂東彦三郎　坂東文太郎　中村芝翫　中村芝雀
大谷友右衛門　坂東文太郎　坂東彦三郎　中村芝翫　中村芝雀
大谷友右衛門　中村芝翫　中村芝雀　中村芝翫　中村芝雀